授業科目名・形態	臨床薬理学・講義	必修・選択の別	必修	単位数	2
科目担当者氏名	三浦　昌朋	実務経験の有無	有	開講期	２年前期
科目ナンバリング	N3-2005npmht				

【授業の主題】

各種疾患の治療薬が臨床で使用されるまでのプロセスを理解し、医薬品の安全・適正な薬物療法の姿勢を考察する。
具体的に、医薬品が治療薬として使用されるには、臨床試験（治験）と呼ばれる厳しい審査過程を経る必要がある。この過程では、医薬品の可能性のある化合物を被験者に使用し、安全性・有効性を検証するが、時には有害事象が発生することもある。医薬品は多くの被験者の貢献によって市場に上がってきていることを知ると同時に、上場後被験者に該当しなかった高齢者・妊婦助産婦・小児等への薬物療法の注意事項についても理解を得る。

【到達目標】

1） 各種化学物質が医薬品として市場に登場するまでのプロセスを理解する。
2） 上記プロセスで行われる各種試験項目の重要性を理解する。
3） 上記プロセスの対象以外の患者群（高齢者・妊婦助産婦・小児等）への薬物療法を理解する。
4） 薬事関連法規を理解し、医療施設での医薬品管理を遂行できる。

【授業計画・内容】

第 1～3 回　臨床研究・治験の概要・PMDA・医薬品に関する法律・処方箋の読み方・医療安全
第 4～6 回　医薬品に関する法律薬物動態学と TDM・ DDS 製剤と剤型・輸液
第 7～9 回　薬物相互作用・ポリファーマシー・薬の個人差・薬理遺伝学・ゲノム医療
第 10～12 回　小児・妊婦授乳婦・副作用とは・アレルギー・薬害・高齢者への薬物治療
第 13～15 回　抗菌薬・抗がん薬治療と注意点

【授業実施方法】

基本的に教科書の内容に沿ったスライドを用い、参考資料を配布し講義形式で内容を丁寧に説明し、理解度を高める。

【事前・事後学習】

講義内容に関する教科書『クイックマスター「薬理学」鈴木正彦　著　サイオ出版』の該当項目を事前学習として毎回 2 時間以上行うこと。
講義内容を踏まえ、復習を教科書と配布資料を用いて毎回 2 時間以上行うこと。
なお、理解できなかった点は、適宜教員に質問し、早めの理解を心がけること。

【主な関連する科目】

生理学および生化学

【教科書等】

１年次に使用した教科書『クイックマスター「薬理学」　鈴木正彦著　サイオ出版』

【参考文献】

特になし

【成績評価方法】

試験成績(80%)と授業態度等(20%)で評価

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

秋田大学医学部医学科の臨床薬理学等の講義の主任教員を担当、保健学科の薬理学の講義を担当してきており、実務経験から得た薬物治療を行う上での注意点・臨床現場に出る前に学んでおくべきポイントについて講義する。

【学生へのメッセージ】

将来、臨床現場に活かして欲しい